

■水の文化37号予告

特集「祭」(仮)

祭には祈願、酒食、芸能といった要素が含まれています。その社会的機能は、人生や集団、社会の循環を元気にするのではないか。「行事としての祭り」と、その背景にある人々の「暮らしの想像力」の世界を紹介します。



水の文化 Information

『水の文化』に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水とのかかわり」に焦点を当てた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究などの情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<http://www.mizu.gr.jp/>

水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

編集後記

◆「取材」に初参加！「熱い」が印象深くなった数カ月。愛知用水設立時、あるいは今・未来への熱い想いを直に感じ、私の胸が熱くなる事も度々；しかし、取材の日は毎日酷暑で熱かった！素敵な方々に出会えて感謝です。(谷邑)

◆民に始まったプロジェクトに国が参加し、それを熱い想いと行動で昇華させた人々がいる。さらにその想いを受け継いで、違う立場でまたまた熱い人達がいる。愛知用水には素晴らしいカタチが凝縮されている。次の50年ほどどのように継承されていくのだろう。(新)

◆私は本号の取材まで愛知用水のことを何も知らなかったし、私同様の方も多いのではないかと思う。愛知用水ができてまだ50年、世界に誇るべき事業の記憶が薄れているのは大変残念なことである。そして、この偉大な経験・知見を広く継承できていない所に、現代日本の問題があるのではないかと感じた。(松)

◆愛知用水は中学生の社会の教科書で見た記憶がある。水の文化に関わらなければ、全く気にしなかった他人の歴史のひとつだった。しかし今回、熱い人間ドラマに接し、改めて人の水にかける情熱と、水の恵みを感じた。(ゆ)

◆愛知用水は「数度の水利転用」と「幹線・支線の2層管理方式」、独自の歴史的経緯により、用水を統治する独自のソーシャル・キャピタルを維持してきた。この連携力は、今後、愛知用水を公共事業再構築の先進例にするかもしれない。本号はその教訓の宝庫だ。(中)

◆「新しい公共」という言葉が注目を集めている。過度に行政に依存した社会システムを改め、市民や民間の力で公共を担うというこの考え方を、既に50年前に達成していた愛知用水に、現代の私たちが学ぶことは多いはず。(緒)

◆知多半島は地形図で見ると川の流れがほとんどない丘陵地。その地図に幹線、支線を描いていくと、半島の隅々まで水路が巡らされ、水の潤沢な土地に生まれ変わってゆく。その変貌ぶりに、当時の人達の願いや情熱がひしひしと伝わってきた。(力)

◆〈不老会〉を知って、鳥肌が立った。時空を超える社会貢献ともいえる〈不老会〉にたどり着いて、愛知用水運動は完全に利己を超越した。公共の事業とは本来、このように人々が手を携え、希望を紡ぐ事業なのではないか。(賀)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化

第36号

ホームページアドレス
<http://www.mizu.gr.jp/>

※ 禁無断転載複写

発行日 2010年(平成22年)10月

企画協力 沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信 法政大学教授
鳥越皓之 早稲田大学教授

編集制作 宮崎真次 新美敏之 松本裕佳 小林夕夏 中庭光彦
緒方大輔 原田朱野 賀川一枝 中野公力 賀川督明

発行 ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15 茅場町中埜ビル9F
株式会社ミツカングループ本社 広報室内

Tel. 03(3555)2607 Fax. 03(3297)8578

お問い合わせ ミツカン水の文化センター 事務局

〒104-0043 東京都中央区湊1-13-2 アリス・マナーガーデン11F
Tel. 03(3552)7504 Fax. 03(3552)7506